整理番号	12

法人名	公益財団法人愛媛県動物園協会

所管部(局)課	土木部　都市整備課

1　法人の概要

令和　7　年　3　月　31　日 現在

代表者名	理事長　村上　忠	ホームページURL	https://www.tobezoo.com/
所 在 地	愛媛県伊予郡砥部町上原町240番地	電話番号	089-962-6000
基本金・資本金等	20,000　千円	設立年月日 （移行年月日）	昭和62　年　4 月　1 日 （平成22　年　6 月　1 日）

主な出資者	出資者名	出資額（千円）	出資比率（%）
	愛媛県	10,000	50.0
	（利益繰入）	10,000	50.0

設立目的	愛媛県立とべ動物園の有効利用の推進に協力するとともに、動物の知識及び動物愛護思想の普及を図り、もって県民の教育文化の向上に寄与することを目的とする。
設立の経緯及び経過	平成22年6月1日公益財団法人に移行

主な事業内容		管理受託施設（指定管理者施設を含む）
	県から委託を受けて行う愛媛県立とべ動物園他の維持管理運営、動物園事業に関する援助協力、動物の知識及び愛護思想の普及事業、遊具売店他の収益事業	愛媛県立とべ動物園、総合運動公園の自由広場及び駐車場

2　組織の状況

（単位：人）

区分＼年度	令和3年度					令和4年度					令和5年度					令和6年度					増減	左記の増減理由
	合計	うちプロパー	うち県職員（派遣）	うち県職員（兼務）	うち県職員OB	合計	うちプロパー	うち県職員（派遣）	うち県職員（兼務）	うち県職員OB	合計	うちプロパー	うち県職員（派遣）	うち県職員（兼務）	うち県職員OB	合計	うちプロパー	うち県職員（派遣）	うち県職員（兼務）	うち県職員OB		
評議員	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	
常勤	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	
理事等	9	1	0	0	1	9	1	0	0	1	9	1	0	0	1	9	1	0	0	1	0	
常勤	2	1	0	0	1	2	1	0	0	1	2	1	0	0	1	2	1	0	0	1	0	
非常勤	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	
職員	68	63	3	0	2	71	66	3	0	2	70	65	3	0	2	73	67	4	0	2	3	派遣職員の増 欠員補充
正規職員	42	37	3	0	2	45	40	3	0	2	43	38	3	0	2	48	42	4	0	2	5	
非正規職員	26	26	0	0	0	26	26	0	0	0	27	27	0	0	0	25	25	0	0	0	△2	
常勤職員	14	14	0	0	0	15	15	0	0	0	15	15	0	0	0	13	13	0	0	0	△2	
非常勤職員	12	12	0	0	0	11	11	0	0	0	12	12	0	0	0	12	12	0	0	0	0	
県関係職員の実数	6		3	1	2	6		3	1	2	6		3	1	2	7		4	1	2		
県退職後2年内雇用OB					2					2					2					2		

役員・職員の兼務等特記事項	R3-6 常務理事兼事務局長(県職員OB)、理事兼園長(プロパー)

整理番号	12

法人名　公益財団法人愛媛県動物園協会

3 実施事業評価表

（単位：千円、％）

事業名１		区分	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	増減率（前年度比）	増減理由（前年度10％以上の増減があった場合）
動物園管理他に関する事業		経常費用	585,566	623,796	618,272	619,084	709,993	14.7	人件費・物価上昇のため
		全体事業に占める割合（％）	90.41	96.31	95.46	95.58	109.62		
事業開始年度	平成18年度	経常収益	586,314	620,844	625,033	612,581	716,733	17.0	指定管理料・駐車場収入の増
事業終了年度	※予定、見込みがある場合	全体事業に占める割合（％）	90.52	96.43	95.57	95.70	109.75		
成果指標		指標項目（単位）	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	増減率（前年度比）	指標選定理由
		入園者満足度（％）	87.4	92.6	90.6	80	81	1.4	来園者の期待に応えるための動物園を目指す。満足度80%を目指す。 R5年度 アンケート項目一部変更 施設や職員対応に係る8項目の平均。
								－	
事業内容（事業の目的、期待される効果、これまでの成果等）		動物園の維持管理を行い、来園者に満足してもらえる施設づくりを目指す。							

（単位：千円、％）

事業名２		区分	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	増減率（前年度比）	増減理由（前年度10％以上の増減があった場合）
鳥獣保護・調査研究事業		経常費用	570	569	595	593	636	7.3	
		全体事業に占める割合（％）	0.09	0.09	0.09	0.09	0.10		
事業開始年度	平成18年度	経常収益	570	569	595	593	636	7.3	
事業終了年度	※予定、見込みがある場合	全体事業に占める割合（％）	0.09	0.09	0.09	0.09	0.10		
成果指標		指標項目（単位）	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	増減率（前年度比）	指標選定理由
		鳥獣保護受入割合（％）	100	100	100	100	100	0.0	野生鳥獣の保護要請に対する受入割合（100％）目標
								－	
事業内容（事業の目的、期待される効果、これまでの成果等）		野生傷病鳥に関して、適切な保護要請があれば受け入れを行い、治療後自然界へ戻す。							

（単位：千円、％）

事業名３		区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	増減理由 （前年度10%以上の増減があった場合）
協力・普及活動事業		経常費用	1,125	2,053	2,283	3,215	2,497	△22.3	夜の動物園の新聞広告をHP・SNSでの広報へ変更したことによる費用減
		全体事業に占める割合(%)	0.17	0.32	0.35	0.50	0.39		
事業開始年度	平成18年度	経常収益	1,125	2,053	2,283	3,215	2,497	△22.3	
事業終了年度	※予定、見込みがある場合	全体事業に占める割合(%)	0.17	0.32	0.35	0.50	0.39		
成果指標		指標項目（単位）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
		ｲﾍﾞﾝﾄ・教育事業への参加者満足度（％）	87	93	91	80	81	1.4	来園者の期待に応えるための動物園を目指す。満足度80％を目指す。 R5年度 アンケート項目一部変更 施設や職員対応に係る8項目の平均。
								−	
事業内容 （事業の目的、期待される効果、これまでの成果等）		ｲﾍﾞﾝﾄ・教育事業を行い、動物に対する興味や知識、命の大切さなどを学んでもらう。							

（単位：千円、％）

事業名４		区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	増減理由 （前年度10%以上の増減があった場合）
収益事業		経常費用	42,840	47,903	56,164	61,033	67,541	10.7	仕入値及び販売価格の上昇
		全体事業に占める割合(%)	6.61	7.40	8.67	9.42	10.43		
事業開始年度	平成18年度	経常収益	52,701	60,983	81,160	75,544	86,234	14.2	
事業終了年度	※予定、見込みがある場合	全体事業に占める割合(%)	6.62	7.40	8.68	9.43	10.44		
成果指標		指標項目（単位）	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	指標選定理由
		利益率（％）	18.7	21.4	30.8	19.2	21.7	12.9	収益事業の安定性、健全性を保つため、利益率20％以上を目指す。
								−	
事業内容 （事業の目的、期待される効果、これまでの成果等）		園内売店、遊園地、自動販売機等、来園者の利便性を向上させるため収益事業を実施。							

（単位：千円、％）

その他事業	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率 (前年度比)	増減理由 （前年度10%以上の増減があった場合）
法人会計	経常費用	988	1,008	1,086	1,048	1,048	0.0	
	全体事業に占める割合(%)	0.15	0.16	0.17	0.16	0.16		
	経常収益	30	27	76	29	28	△3.4	
	全体事業に占める割合(%)	0.15	0.16	0.17	0.16	0.16		

整理番号	12

法人名　公益財団法人愛媛県動物園協会

4 財務状況

（単位：千円、％）

	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率（前年度比）	増減理由（個々の項目で前年度10%前後の増減及び当該年度特有の事情による増減があった場合に記入）
【正味財産増減計算書】	経常収益計	630,848	671,370	696,622	684,679	796,754	16.4	指定管理料・駐車場及び売店収入の増加のため
	うち公益目的	578,147	610,387	615,414	609,135	710,520	16.6	
	うち基本財産運用益	30	20	20	20	18	△10.0	
	うち公益目的	30	20	20	20	18	△10.0	
	うち事業収益	191,322	202,321	274,193	262,375	279,225	6.4	駐車場収入、売店収入の増
	うち公益目的	146,574	142,327	193,838	187,520	194,275	3.6	
	うち受取補助金等(委託料・負担金含む)	431,573	459,000	402,518	406,760	504,838	24.1	人件費・物価高騰のため指定管理料増
	うち公益目的	431,573	459,000	402,518	406,760	504,838	24.1	
	経常費用計	631,059	675,303	678,373	684,945	781,707	14.1	人件費・物価高騰のため
	うち公益目的	587,260	626,419	621,151	622,893	713,126	14.5	
	うち事業費	625,104	667,931	670,097	671,305	769,927	14.7	人件費・物価高騰のため
	うち公益目的	587,260	626,419	621,151	622,893	713,126	14.5	
	うち管理費	5,955	7,372	8,276	13,640	11,780	△13.6	前年度にかかる法人税の減
	うち公益目的	0	0	0	0	0	－	
	当期経常増減額	−211	−3,933	18,249	−266	15,047	5756.8	
	当期経常外増減額	0	0	77	0	83	－	
	当期正味財産増減額	−270	−4,253	18,223	−6,259	14,942	338.7	
【貸借対照表】	資産	482,538	516,099	502,869	442,100	508,836	15.1	
	流動資産	110,670	154,646	194,953	117,841	188,617	60.1	年度末退職者未払退職金等
	固定資産	371,868	361,453	307,916	324,259	320,219	△1.2	
	うち基本財産	20,000	20,000	20,000	20,000	20,017	0.1	
	負債	406,873	444,687	413,234	358,725	410,518	14.4	
	流動負債	68,571	115,827	137,809	60,819	118,261	94.4	年度末退職者未払退職金等
	うち短期借入金	0	0	0	0	0	－	
	固定負債	338,302	328,860	275,425	297,906	292,256	△1.9	
	うち長期借入金	0	0	0	0	0	－	
	正味財産	75,665	71,412	89,635	83,376	98,318	17.9	
	指定正味財産	20,095	19,775	19,672	13,678	13,492	△1.4	
	一般正味財産	55,570	51,637	69,963	69,697	84,826	21.7	今年度収支差額分
	負債・正味財産合計	482,538	516,099	502,869	442,100	508,836	15.1	

【人件費内訳】

（単位：千円、％）

区分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率（前年度比）	増減理由（前年度10%以上の増減があった場合）
役員人件費		660	710	780	730	760	4.1	
職員人件費	うち事業費分	336,335	361,029	335,212	327,808	368,015	12.3	給与体系の見直し等
	うち管理費分	2,810	2,846	3,047	3,298	3,799	15.2	給与体系の見直し等
	小計	339,145	363,875	338,259	331,106	375,630	13.4	
合計		339,805	364,585	339,039	331,836	376,390	13.4	

【県の財政的関与】 （単位：千円、％）

区分		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減率（前年度比）	増減理由（前年度10％以上の増減があった場合）
	負担金	0	0	0	0	0	－	
	補助金	0	0	0	0	0	－	
	委託料	431,573	459,000	402,518	406,760	504,838	24.1	
	うち指定管理委託料	429,913	458,450	401,086	405,385	498,849	23.1	人件費・物価高騰のため
	うち再委託額	95,602	95,733	100,752	104,191	116,971	12.3	人件費・物価高騰のため
	貸付額	0	0	0	0	0	－	
県支出金計		431,573	459,000	402,518	406,760	504,838	24.1	
貸付残高(期末)		0	0	0	0	0	－	
損失補償に係る債務負担残高（期末）		0	0	0	0	0	－	

【県の財政的関与の内訳】（R6年度） （単位：千円）

区分	名称	金額	左記の内容 ※それぞれの始期を（終期が決まっている場合は終期も）記載すること。単年度のみの負担金等は、その旨を記載。 ※貸付金については、貸付期間も記載すること。
負担金			
補助金			
委託料	とべ動物園他指定管理料	498,849	指定管理協定に基づく愛媛県立とべ動物園、総合運動公園の自由広場及び駐車場の維持管理運営
	野生傷病鳥獣保護事業	550	傷病鳥獣の保護　ツバメなど
	ふれあい動物園受託事業	442	
	検疫事業受託	4,997	オランウータンの導入に先立ち、関西空港検疫所での検疫業務及びそれに付随
貸付金			
損失補償			

【財務関係指標】 （単位：％）

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	増減	指標計算式
県財政支出依存度	68.4	68.4	57.8	59.4	63.4	4.0	県からの補助金等（補助金・負担金・委託金）÷経常収益計×100
県受託事業の再委託度	22.2	20.9	25.0	25.6	23.2	△2.4	県からの受託事業の外部委託費÷県からの受託事業費×100
人件費比率	53.8	54.0	50.0	48.4	48.1	△0.3	人件費÷経常費用計×100
管理費比率	0.9	1.1	1.2	2.0	1.5	△0.5	管理費÷経常費用計×100
正味財産比率（会社法人及び公社以外）	15.7	13.8	17.8	18.9	19.3	0.5	正味財産÷（負債＋正味財産）×100
流動比率	161.4	133.5	141.5	193.8	159.5	△34.3	（流動資産÷流動負債）×100
借入金依存率	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	（長期借入金＋短期借入金）÷資産×100
公益目的事業比率	93.1	92.8	91.6	90.9	91.2	0.3	（公益目的事業費）÷（公益目的事業費＋収益事業等の費用＋管理費）×100

整理番号	12

法人名　公益財団法人愛媛県動物園協会

5 役員会等の開催状況

（1）令和6年度開催の役員会（理事会又は取締役会）の開催状況及び各役員（理事・監事又は取締役・監査役）の出席状況

		常勤 非常勤	社内 社外	開催日	R6.5.20	R6.6.17	R7.2.3	R7.3.24	出席率（代理出席含む）	備考
				開催方式	対面	対面	書面	対面		
役員	理事A	非常勤	社外	出席状況	○	○	○	○	100%	
	理事B	常勤	社内		○	○	○	○	100%	
	理事C	非常勤	社外		—	○	○	○	100%	
	理事D	非常勤	社外		○	○	○	○	100%	
	理事E	非常勤	社外		○	○	○	○	100%	
	理事F	非常勤	社外		×	○	○	○	75%	
	理事G	非常勤	社外		○	○	○	○	100%	
	理事H	常勤	社内		○	○	○	○	100%	
	理事I	非常勤	社外		○	—	—	—	100%	
	監事A	非常勤	社外		○	○	○	○	100%	

【出席:○、代理出席:△、欠席:×、その他(年度途中の就退任等):—　】

（2）令和6年度開催の評議員会の開催状況及び出席状況

開催日	R6.6.17	R7.3.24
開催方式	対面	対面
出席人数	2	3
欠席人数	1	3

（3）法人が各取締役、監査役、理事、監事に期待するスキル

		常勤 非常勤	社内 社外	経営、戦略	人事 人材育成	営業	技術	財務、会計（財産の管理運用）	法務	ガバナンス 内部統制	その他 （　　）
役員	理事A	非常勤	社外	○		○					
	理事B	常勤	社内	○	○	○		○	○	○	
	理事C	非常勤	社外				○				
	理事D	非常勤	社外	○		○					
	理事E	非常勤	社外	○		○					
	理事F	非常勤	社外	○		○					
	理事G	非常勤	社外	○		○					
	理事H	常勤	社内				○				
	理事I	非常勤	社外				○				
	監事A	非常勤	社外					○	○	○	
○のない理由 （当該スキルを役員に期待しない理由） 例 ・法人の事業内容と関係のないスキルであるため。 ・別に外部の専門家から助言や支援を受けているため。											

整理番号	12

法人名　公益財団法人愛媛県動物園協会

6　法人の現状及び過去の評価結果

法人の現状	○経営の安定を図るため、とべ動物園の入園者数の確保と経費節減に積極的に取り組んでいる。 ○また、平成22年6月に公益財団法人に移行し、法人としての自立性の向上、組織体制の強化、公益事業の一層の推進に努めている。 ○平成３１年度から5年間とべ動物園の指定管理者に指定されている。
県出資法人改革プランに基づく最終点検評価結果（平成22年度総評）	○当法人は、平成18年度からの指定管理者制度導入以後、様々な工夫した取組みを実施した結果、とべ動物園の入園者数、入園料収入を増加させており、その取組みは大いに評価できる。 ○開園して22年を経過している施設の維持改修については、入園者数、利用料金収入の増加を図る観点も含め、県と協議して計画的に実施していただきたい。 ○獣医の県職員派遣は、当法人の公益性や経営状況等を勘案し、将来的にはノウハウ等を継続した上で、プロパー化を進めていただきたい。
県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果（平成23～25年度事業総括）	○21年度には、高速道路利用料金の大幅な割引制度の実施や全国的な動物園ブームの影響で、利用者数及び入園料他収入は開園当初6年間を除き最大となっていたが、割引制度終了後は、利用者及び入園料他収入が減少し、評価全期間において赤字を計上しており、収支の両面からの改善に早急に取り組んでいただきたい。 ○人口の減少、少子化、レジャーの多様化、動物園ブームの終焉、中四国地区の他園との競合、獣舎リニューアルに活用していた助成制度の廃止など、動物園を取り巻く環境が厳しさを増す中、25年度の利用者数はピーク時（21年度）の約4分の3近くまで落ち込んでおり、利用者数の確保が喫緊の課題となっている。このため、イベント開催などソフト面の充実、人気動物の繁殖や展示方法の工夫など来園者サービスの向上を図るとともに、近隣施設との連携強化を進めるなど、様々な対策を検討・実施のうえ、利用者の確保につなげていただきたい。 ○新公益法人体系への移行に伴い、評議員制度を導入し、組織体制の見直しを図ったことは評価できる。 ○獣医師の県職員派遣は、法人の公益性や経営状況等を勘案したうえで見直すべき長期的課題であり、将来的にはノウハウ等を継続したうえで、プロパー化に取り組まれたい。
県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果（平成26～29年度事業総括）	○動物の高齢化や病気・ケガ等を原因とする死亡が相次ぎ、心を痛める県民が多いため、繁殖技術の向上に努めるほか、県の適切な財政関与の下で新しい動物の確保、展示方法の工夫を推進するなど、公立の動物園にふさわしい魅力ある施設整備等に努めること。 ○正味財産比率がここ数年減少傾向にあることから、経営の基盤を強化すべく、適切な管理運営に必要な経費について県の担当課と協議するとともに、中期経営計画にあるように、SNSツールを活用した広報や営業力の強化など、入園者及び収入の増加に努めること。 ○県からの獣医師の派遣については、法人の公益性や経営状況を勘案した上で見直すべき課題であることから、将来的にはノウハウ等を継承し、プロパー化するよう引き続き取り組むこと。
県出資法人経営評価指針に基づく経営評価結果（平成30～令和3年度事業総括）	○有料ガイド事業や収益事業の充実により、収支改善に努めている点は評価できる。今後も動物園とこどもの城をつなぐジップラインを活用した誘客促進など、とべもりエリアの施設間連携により、来園者数の増加を図るとともに、収益性の高い事業を実施し、収入の確保に努めること。 ○獣医師については、厳しい経営状況にあるが、ノウハウの継承や繁殖技術の更なる向上など動物保護施設としての役割を高めるためにも、プロパー化について、県等と協議をしながら検討を進めること。 ○SNSを活用したPRや、テレビや新聞を通じた広報活動に取り組んでいることは評価できる。今後も効果的な情報発信により、動物愛護思想の普及及び来園者数の拡大に努めること。

7　令和5年度から令和8年度における2次評価内容

令和5年度評価 （令和4年度実績）	①4年度の財務状況は、当期経常増減額が3年度の-3,933千円から+18,249千円に黒字転換し、一般正味財産は3年度と比べて18,326千円増加した。これは、夜の動物園等の開園時間の延長や有料ガイドのほか、新たな事業として獣医師体験など来園者サービスの充実に取り組み、入園者数と利用料金収入等がコロナ禍前の水準に回復したことなどによるものである。 ②有料ガイド事業等の収益事業の充実により、収益の確保に努めている点は評価できる。今後も、動物園とこどもの城をつなぐジップラインを活用した誘客促進をはじめ、とべもり+（プラス）エリアの施設間連携により、施設の利便性と魅力度の向上を図ること。 ③獣医師については、ノウハウの継承や繁殖技術の更なる向上など動物保護施設としての役割を高めるためにも、プロパー化について、県等と協議をしながら検討を進めること。 ④SNSを活用したPRや、テレビや新聞を通じた広報活動に取り組んでいることは評価できる。今後も効果的な情報発信により、動物福祉の学びの場の提供及び来園者数の拡大に努めること。
令和6年度評価 （令和5年度実績）	①5年度の財務状況は、当期経常増減額が4年度の+18,249千円から-266千円に赤字転換し、一般正味財産は4年度と比べて266千円減少した。これは、大型連休や行楽シーズンに雨天日や猛暑日が多かったことにより、入園者数が減少し、入園料収入が減少したことなどによるものである。 ②開園35周年事業として、多様なイベントの開催に努めたほか、有料ガイド事業や動物カンバッチガチャ等を新たに開発するなど、公益・収益事業の充実に取り組んでいることは評価できる。また、動物園とこどもの城をつなぐジップラインの3周年記念イベントへの協力や、とべもりエリア限定スイーツの販売を促進するなど、収益増加を図っており、今後とも各施設と連携した取組みにより、収支の改善に努めること。 ③オンライン会議等により、他の動物園と動物の飼育等に関する情報を交換し、ノウハウを共有するなど、職員の動物に対する知識等をより一層向上させる方法の検討を行うこと。 ④35周年記念ポスター・ロゴを活用したPRや、テレビや新聞を通じた広報活動に取り組んでいることは評価できる。悪天候時に来園者数が減少しているため、雨天時の動物園の楽しみ方をSNSで発信するなど、新たな情報発信の方法を検討し、来園者数の拡大に努めること。
令和7年度評価 （令和6年度実績）	
令和8年度評価 （令和7年度実績）	

8　令和6年度2次評価における指摘事項等への対応や検討状況

①令和6年度の入園者数は5年度に比べ3,345人増の413,463人にとどまった。これは、引き続き記録的な猛暑であったことや、行楽シーズンの南海トラフ地震臨時情報の影響によるものと思われる。また入園者数の増加及び消耗品の節約等により協会全体の収支は黒字となった。
②令和6年度も引き続き有料ガイド事業を行い774千円の収入があった。また、マーケティングプロジェクトチームが開発した新商品の売上は2,310千円で、いずれも収支の改善につながった。また、ジップラインオープン3周年記念イベントに協力するとともに、とべもりエリア限定スイーツの販売促進に努めるなど集客を図った。
③令和6年度はオンラインも含めて日本動物園水族館協会が主催する技術研修会及び各種専門部会22会議へ参加し、飼育や治療技術向上のための情報交換を行った。
④従来行っている季節に合わせた投稿等に加え、雨天や降雪などの時にしか見ることのできない動物の様子を投稿し、来園者誘引につながる情報発信に努めている。

9　県出資法人経営評価指針に基づく今後の課題と取組実績（令和4～7年度実績）

（1）出資法人の自主性・自立性の向上

〇組織体制の見直し、役職員数及び給与制度の見直し

取り組むべき課題		〇経営力の強化に向けた効果的な組織づくり
取組内容	共通	〇現状を分析しつつ効果的な組織づくりを進める。
	令和4年度	〇実績や能力のある職員をより的確に評価し、昇給・昇格や管理職への積極的な登用を図った。
	令和5年度	〇給与体系の見直しを検討し、県と協議中である。
	令和6年度	〇県の給与体系を参考に給与を見直し、若手職員の登用や適材適所の人材配置を行った。
	令和7年度	

〇経営基盤の充実強化、経営におけるPDCAサイクルの実践

取り組むべき課題		〇利用の促進を図り、利用料金の増収とともに、天候などに左右されない安定した収入の確保についても努力する。経費の節減にも努める。
取組内容	共通	〇積極的なイベント開催やPRによる来園者サービスの向上を図るとともに、経費の節減に努める。
	令和4年度	〇獣医師体験等の新たな有料イベントを開始し、収益増を図った。
	令和5年度	〇有料イベントの強化およびPTでの魅力的な商品開発によって収益増を図った。
	令和6年度	〇引き続き有料イベント等も実施しながら、広告方法の見直しを行い、経費の節減に努めた。
	令和7年度	

（2）県の関与の適正化

〇財政的関与の見直し

取り組むべき課題		〇法人の財政基盤の強化
取組内容	共通	〇適正な指定管理委託料の確保
	令和4年度	〇燃料費等の急激な物価高騰に対応するため、県と協議し影響額を精査のうえ、委託料の増額措置を行い、適正な指定管理料の確保に努めた。
	令和5年度	〇次期指定管理期間の受託料について県と協議し、適正な指定管理料の確保に努めた。
	令和6年度	〇人件費・物価の高騰に対応するため、県と協議し適正な指定管理料の確保に努めた。
	令和7年度	

〇人的関与の見直し

<table>
<tr><td colspan="2">取り組むべき課題</td><td colspan="2">〇獣医のプロパー化</td></tr>
<tr><td rowspan="9">取組内容</td><td>共通</td><td colspan="2">〇県と協議しながら現在は県職員である獣医のプロパー化の検討を進める。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和4年度</td><td colspan="2">〇引き続き、県と協議しながら検討を進めた。</td></tr>
<tr><td>プロパー職員の採用・育成に係る取組</td><td>出張や研修により、技術や知識を深めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和5年度</td><td colspan="2">〇県と協議しながら検討を進め、他園館でのプロパー獣医師の雇用状況の実態調査等を行</td></tr>
<tr><td>プロパー職員の採用・育成に係る取組</td><td>出張や研修により、技術や知識を深めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和6年度</td><td colspan="2">〇引き続き、県と協議しながら検討を進めた。</td></tr>
<tr><td>プロパー職員の採用・育成に係る取組</td><td>出張や研修により、技術や知識を深めた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">令和7年度</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>プロパー職員の採用・育成に係る取組</td><td></td></tr>
</table>

〇出資法人の活用

<table>
<tr><td colspan="2">取り組むべき課題</td><td>〇近隣の県施設との連携</td></tr>
<tr><td rowspan="5">取組内容</td><td>共通</td><td>〇こどもの城や運動公園との連携による集客を図る。</td></tr>
<tr><td>令和4年度</td><td>〇引き続き、駐車場の共有化を実施した。
〇とべもりエリアでの共同イベントを実施した。</td></tr>
<tr><td>令和5年度</td><td>〇引き続き、とべもりエリアでの駐車場の共有化、共同イベントを実施するとともに、とべもりエリア新スイーツの魅力発信に務めた。</td></tr>
<tr><td>令和6年度</td><td>〇引き続き、とべもりエリアでの駐車場の共有化、共同イベントを実施するとともに、森林公園でのイベント協力を行った。</td></tr>
<tr><td>令和7年度</td><td></td></tr>
</table>

※特に、産業振興や地域活性化への関与、貢献に当たる取組みや事業を記載してください。

(3)法人情報等の積極的な開示等

〇法人情報の公開

<table>
<tr><td colspan="2">取り組むべき課題</td><td>〇財務状況に関する正確な情報提供</td></tr>
<tr><td rowspan="5">取組内容</td><td>共通</td><td>〇HPに事業ごとの具体的な成果を記載する。</td></tr>
<tr><td>令和4年度</td><td>〇HPに事業報告等を記載している。</td></tr>
<tr><td>令和5年度</td><td>〇HPに事業報告等を記載している。</td></tr>
<tr><td>令和6年度</td><td>〇HPに事業報告等を記載している。</td></tr>
<tr><td>令和7年度</td><td></td></tr>
</table>

〇認知度の向上

<table>
<tr><td colspan="2">取り組むべき課題</td><td>〇更なる情報の公開、とべ動物園のPR</td></tr>
<tr><td rowspan="5">取組内容</td><td>共通</td><td>〇様々なツールを活用しながらPRに努める。</td></tr>
<tr><td>令和4年度</td><td>〇引き続き、SNS等を活用したイベント情報の発信に努めるとともに、マスメディア出演などにより当園の魅力を強くPRした。</td></tr>
<tr><td>令和5年度</td><td>〇開園35周年記念ポスターやロゴを作成し、それを活用して認知度向上に努めた。
イベント開催の新聞広告を行うとともに引き続きwebでも情報発信に努めた。</td></tr>
<tr><td>令和6年度</td><td>〇新たにインスタグラムの運用を開始し、更なる認知度向上に努めた。
〇25歳になったホッキョクグマ「ピース」の特集番組がNHKで全国放送され大きな反響を得た。</td></tr>
<tr><td>令和7年度</td><td></td></tr>
</table>

10　令和7年度評価（令和6年度実績）

（1）1次評価

法人による評価	令和6年度の年間入園者は413,463人で、お盆前の南海トラフ地震臨時情報や記録的な猛暑の影響により目標の48万人には約67千人及ばなかった。引き続き、夜の動物園等の開園時間の延長や、来園者サービスの一層の充実による魅力向上に加え、積極的な各種PR活動に取り組むとともに、令和7年度中の導入を目指して、県と共同で進めているインドネシアからの雌のオランウータン導入を実現させることで、動物園の魅力を一層高め、入園者数増加と収益確保に繋げて参りたい。 また、来園者アンケートでは令和5年度同様、ソフト面では80%を超えている一方で、駐車場やトイレなどの施設面では80%を下回っている。開園から36年を経過し、老朽化が進む施設の改修や樹齢の進んだ植栽等の対策についても県と協議していきたい。
法人所管課による評価	令和6年度は、お盆前の南海トラフ地震臨時情報や、記録的な猛暑の影響を受けたものの、ホッキョクグマ「ピース」の満25歳誕生会をはじめとする各種イベントの充実を図るなど利用促進事業を強化した結果、利用者数では前年度比100.8%の413,463人、利用料金収入では前年度比103.6%の194,139千円となり、厳しい環境の中、増員・増収を実現できたことは評価できる。 また、施設改修については、限られた予算の中ではあるが、施設の現状や来園者ニーズ等に考慮しながら検討することとしたい。 令和7年度も、飼料・エネルギー価格等の高騰による経費増は避けられない状況ではあるが、経費の節減等に努めつつ、県とも連携を図りながら、令和7年度中の導入予定の雌のオランウータンをはじめとする新たな展示動物の充実を通じて、動物園のさらなる魅力向上を目指していただきたい。あわせて訴求力のある情報発信・PRにも積極的に取組み、入園者数の増加と収益の確保に努めていただきたい。

（2）2次評価